

会 議 録				
平成 21 年度第 1 0 回 社会教育委員の会議	日 時	平成 22 年 3 月 17 日 (水) 午前 9 時 30 分～11 時 30 分	場 所	小金井市役所第二庁舎 8 0 1 会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	浦野、倉持、小林、田尻、樹、中村、本川、本多、吉池 各委員 (欠席) 伊藤委員		
	その他	渡辺生涯学習部長、尾崎生涯学習課長、林スポーツ振興担当課長、 田中図書館長、大関公民館長		
	事務局	木村生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0 人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1. 協議事項				
(1) 放課後子どもプラン運営委員会委員の推薦について				
(2) その他				
2. 報告事項				
(1) 都市社連協第 5 ブロック研修会 (勉強会) について				
(2) 第 4 回小委員会について				
(3) 平成 2 1 年度心身障害児学校外活動委託事業について				
(4) その他				
1. 協議事項				
(1) 放課後子どもプラン運営委員会委員の推薦について				
(本川議長)				
現在、放課後子どもプラン運営委員会には、小林委員に 2 年間出してもらっているが、皆様にもその中身を知ってもらった上で検討したいと思う。				
(小林委員)				
社会教育委員の会議の出した「地域教育会議」という提言があり、放課後子どもプランについても記載されている。地域ネットワークづくりの一環について知る機会でもあるので、色々な方に参加してもらいたいと思っている。				
(本川議長)				
年間会議回数は。				
(尾崎生涯学習課長)				
大体 5、6 回程度である。				

(本川議長)

会議の時間や内容については。

(小林委員)

時間は午前10時から午前11時30分、曜日は不定期である。コーディネーター3人の運営の進捗状況の報告と、それに対する質疑が主な内容で、今年度の最終回が明日行われる。

(本川議長)

小林委員から説明があったが、立候補や推薦はあるか。小林委員はもう1年やってもよいか。

(小林委員)

構わないが、再任は制度上の問題は無いか。

(事務局)

決まりは無い。

(本川議長)

それでは、続けて小林委員にやってもらうということをお願いしたいがどうか。
(拍手がある)拍手多数であるので、小林委員にお願いする。

(小林委員)

今後も、この場で報告を行い、意見も聞いていきたい。

(2) その他

(本川議長)

平成22年8月25日(水)の第4回社会教育委員の会議を午後にしてもらいたい。
事務局としては、場所の確保や開催時間の変更はどうか。

(尾崎生涯学習課長)

801会議室を必ず使用できるとは限らないが、他の会議室を含め場所の確保に努めるので、各委員の都合いい日で構わない。時間は準備の時間もあるので午後1時ではなく午後1時30分開始でお願いしたい。

(本川議長)

各委員の都合は大丈夫か。では申し訳ないが午後1時30分ということをお願いしたい。他に協議事項はあるか。

(中村委員)

普段から市報「こがねい」については関心を持って読んでいるが、教育委員については会合があるたびに市報に掲載されていると思うが、社会教育委員についても同じように掲載することはできるか。

なぜなら、社会教育は非常に範囲が広く、市民から見て社会教育委員が何をやっているのかよくわからない面があるかと思う。掲載には様々な基準があると思うが、掲載されれば今まで以上に活発な議論が期待され、市民にも社会教育委員の活動がよく

理解されるのではないか。

もし可能であれば、今後、市報「こがねい」に社会教育委員の会議の内容を掲載できないかという提案である。

(渡辺生涯学習部長)

審議会や協議会等は50近くの数があり、それらについて全て掲載するだけの紙面があるか、広報と調整の上で報告をしたいと思う。

2. 報告事項

(1) 都市社連協第5ブロック研修会（勉強会）について

(本川議長)

都市社連協第5ブロック研修会（勉強会）についてだが、研修会でやりきれなかったことを各市協議の上、勉強会という形で開催されたので参加した。

参加者は各市の社会教育委員20名と事務局7名、資料には掲載が無いが他にも数名の参加があった。シンポジウムについては、持ち時間を越えての発表があり、時間がかかってしまった。

また、平成19年の第5ブロックの研修会に参加した人は知っていると思うが、「めろん」という父親不在の家庭を題材に家庭のあり方を描いた演劇があり、その内容についての検討もあった。シナリオは高校で演劇部顧問をしている教諭の作ったものである。見ていない人もシナリオ原稿が添付されているので読んで欲しい。

個人的に驚く部分があったのは、演劇の中で結婚式を明日に控えた長女を交えた三人兄弟の母親とのやりとりがあり、その中で父親を表したぬいぐるみが投げ飛ばされたりしていたからだ。個人的には社会教育の研修会でこのような演劇があつていいのだろうかとも思ったが、演劇というのは、見た結果どう考えていくかということ投げかけているものであると考えればいいのではないかと他の参加者に言われ、そういうものかという感想を持った。

各市の委員が7人程度のグループに別れての研修となったが、府中市より「学び返し」という言葉を第5ブロックで共有していきたいという提案があった。このことについては、各市この言葉に対する理解に差があり、地域差もあるため難しい部分もあるが、副題を付けるなどして対応していくこともひとつの方法であると思った。

また、各市の意見の中で事務局職員の異動が早いため、ある程度の年数は同じ職員に対応してもらいたいという要望があった。報告は以上である。事務局から補足や伝達事項はあるか。

(事務局)

研修会についての説明は十分である。伝達事項としては、平成22年度は関東甲信越静大会分科会を第5ブロックで受け持つことになりそうなので、今後各委員にも協力をお願いすると思う。

(2) 第4回小委員会について

(浦野委員)

3月10日に第4回の小委員会が開催された。放課後子ども教室について日常の活動や放課後子どもプラン運営委員会と放課後子ども教室実行委員会の違いについて等を話し合った。この事業は地域教育会議の中でも取り上げられており、放課後子ども教室がどのような活動をしているのか確認するべきではないかと話し合った。それ以外には第4回の小委員会で何か決まったということはないと記憶している。小林委員、何か補足はあるか。

(小林委員)

平成20年度小金井市放課後子ども教室の活動記録があるが、ここには委員会のあり方や規約、委員の氏名、活動記録などをまとめたもので、それに目を通しながら話をさせていただく。

また、この事業は、国と都と市が関わっており、名前は変っているが、このような地域の活動を社会教育委員が知っていることが大切だと思うので、よく読んで欲しい。今後は社会教育委員の声を運営委員会にも届けていきたいと思う。

(本川議長)

この事業は小金井市で実施されてから名前が変わっているが、今後はどうなるのか。

(渡辺生涯学習部長)

平成14年から開始した事業で、国と都の補助金がつき「あそび発見！土曜クラブ」という名称で実施していた。平成15年度は補助金が無くなったが小金井市の単独事業として実施した。平成16年度からは国の再委託事業として「地域子ども教室」と名称が変わって3年間実施した。平成19年度からは国と都の補助事業として「放課後子どもプラン」という名称で実施している。小金井市では平成22年度以降10年間の基本構想をつくっているが、その中の重点プロジェクトの1つとして取り上げられる予定にもなっているため、市としても力を入れる事業である。

(本川議長)

小委員会で放課後子どもプランの取り組みに学校間での差があるという話があった。現状として、早い時期にはじめた学校は実績があり、後からはじめた学校は実績のあるところに追いつこうとがんばっているようである。現状について田尻先生に知っているところがあれば教えてもらいたい。

(田尻委員)

自分の学校では、土曜日の午後に教員が親子ものづくりを実施したほか、合唱団のお別れコンサートをしたりしている。各学校の実施方法は様々であるが詳細は把握していない。

(尾崎生涯学習課長)

放課後子ども教室の現状と今後の課題や方向性について、個人的な意見も入る部分もあるが、説明させていただく。

現在は、小学校区ごとに地域の実情に応じた形で実施されているため、実施状況には多少のばらつきがある。最近では実行委員会形式での実施が増えており、実行委員会形式が4校あり、その他がPTA中心で実施している学校である。平日の放課後の利用も週1回から2回で安定してきており、土日のイベント的な教室もあるが、今後はできるだけ各学校に地域の方々に参画していただき地域と一緒に運営する実行委員会形式で実施する方向でいきたいという考えである。来年度以降、1年に1校程度の割合で実行委員会形式に移行できるように取り組んでいきたいと思っている。

ただし、現状はコーディネーターが1人で3校を担当しており、1週間に2回×5時間という契約では、担当の学校を全て見てまわることが難しい現状がある。これは私見だが、実行委員会形式への移行と併せてコーディネーターを1校に1人ずつ配置できるといいと考えている。実際に来年以降どういった形でできるかわからないが、そのような方向で充実していきたいと考えている。

(浦野委員)

コーディネーターの配置数については、小委員会でも各校1人の配置があったほうがいいのかという意見が出ていたので、今後そういった方向になればいいのではないかと思います。

今後、実行委員会形式に移行したいとのことだが、地域差もあるのでPTA等とも十分に話し合い、地域とPTAが連携し、移行していけるように行政も協力して欲しい。

(本川議長)

来週、今年度最後の小委員会があるので、来年度に向けてどう考えていくかについて話し合い、4月の会議で報告したいと思う。

(3) 平成21年度心身障害児学校外活動委託事業について

(尾崎生涯学習課長)

平成21年度の心身障害児学校外活動の委託事業が終了したので報告する。この事業は、市内の特別支援学級に通学している小・中学生、都立の特別支援学校の幼児部から高等部までに通学している子ども達を対象としており、その保護者で組織する五日制の会に委託している事業である。

活動内容は資料のとおりだが、プール活動については、水泳教室を年15回実施し、その中で9月6日に多摩障害者スポーツセンターで行われる水泳記録会や、3月6日にも水泳記録会・懇親会を開いている。

また、レクリエーション関係ではJリーグサッカー観戦、親子ボウリング大会、キンボール教室、バンドコンサート等、年4回開催している。都の補助金を受けているが、小金井市も委託費として81万5,000円支出している。

(吉池委員)

この資料では8月が休会になっているが、スポーツ振興担当係の事業で、学校五日

制の会による学校のプールを使用した夏休みのプールの集いのようなものがあったはずだが、現在も継続されているか。

(尾崎生涯学習課長)

別の事業として実施している。

(4) その他

・清里山荘のシャトルバス運行について

(尾崎生涯学習課長)

以前の議会で清里山荘へのシャトルバスを運行して欲しいという要請があり、指定管理者に企画を依頼したところ、来年度以降にはなるが、計画の提出があった。最初が4月14日で春に2回、秋は3回9月27日と10月12日、26日、年間5回運行する。自動車や電車などで行くことが難しい市民の方々が利用しやすいよう、年5回・市内発着・料金1万2,000円という計画が示されたので報告する。

(本川議長)

清里山荘は大変よい施設であるという印象があるため、市民の方々が便利に利用できることは、市民・清里山荘双方にとっていいことなので、大いに利用されることを期待する。続いて3月14日にあった協働フェスタについて、出席者からの報告をしてもらいたいと思う。

・協働フェスタについて

(中村委員)

協働という概念の説明や、市内のNPO団体の紹介、バザー、ポスター掲示等があった。また、ポスターセッションという、様々な事業が記されたポスターを基に、参加者に事業仕分けのような形で、これは行政がやる、これはNPOがやる、これはどちらがやってもいいと、というようなことを行われていた。詳細な来場者数はわからないが、前原暫定集会所の1階と2階を使用しており、かなりの賑わいがあった。小金井市市民協働支援センター準備室からも事業内容についての説明があり、小金井NPO法人連絡会が主催ということで挨拶があった。以上である。

(本川議長)

関連するか分からないが、小金井市市民協働支援センター準備室の方と話をしたところ、三鷹市市民協働センターに視察に行ってはどうかという話が出た。平成22年度に視察に行くことを検討しているが、まだ何も決まっていないため、今後調整していきたい。

・図書館協議会について

(浦野委員)

2月18日に図書館協議会があったので報告する。

三者懇談会のテーマについて図書館協議会でも話し合った。明日代表者の打ち合わ

せでテーマを決めるということである。(仮称) 小金井市貫井北町地域センター建設市民検討委員会について、図書館協議会からは松尾会長が出向することとなった。同センターには図書館も入るということで関心が高かった。8月10日から16日までに図書館で開館時間についてのアンケートを取ったが、結果をみることはできるか。

(図書館長)

小金井市公式WEBで見ることができる。

(浦野委員)

おおまかな結果を報告する。来館頻度は週1回、月2回～3回程度が一番多かった。また適当と感じる開館・閉館時間については、開館時刻は9時～9時半という意見が過半数を超えた。閉館時刻は本館20時、東分室19時、緑分室18時、西之台18時が最も適当ではないかという結果だった。休館日数はどの館でもこれまでどおりという意見が75%以上だった。詳細はWEBサイトで確認してもらいたい。以上が報告である。

(本川議長)

三者懇談会のテーマについては、社会教育委員の会議では地域のネットワークづくりに向けてということで話が出ているかと思うが、図書館協議会はどうか。

(浦野委員)

(仮称) 小金井市貫井北町地域センターをテーマにしてはどうかということである。より具体的なテーマで懇談をすることで、様々な方向から意見が出やすいのではないかということであった。

(本川議長)

具体例なテーマとしては貫井北町センターについてになるかもしれないし、包括的なテーマとして地域ネットワークづくりに向けてということでもいいと思うが、明日代表者打ち合わせがあるので各委員の意見を聞きたい。

社会教育委員の会議の扱う分野は非常に広大で、かつ形の無いものが多く、図書館や公民館とは見えるものが少し違っている部分もあるかなと思う。図書館は図書館の具体的なこと、公民館は公民館の具体的なこと、それぞれをすり合わせていけるか不安を感じる。

中村委員は(仮称) 小金井市貫井北町地域センター建設市民検討委員会に出ているが、報告してもらえるか。

(中村委員)

まだ第1回の日程も決まっていない。進展がありしだい会議の場で報告したい。

(本川議長)

(仮称) ではあるが具体的な地名では無い方がより利用者を限定せずに使用できるようにも思う。社会教育委員も関わっているので、少しでもよい施設になることを期待している。

・教育課程の変更について

(田尻委員)

来年度、教育課程の変更等について説明する。1点目は土曜日の授業の実施について。新聞等で知っているかもしれないが、都教育委員会から月2回を上限として土曜日に授業を実施してもよいという通知があった。これは学校、家庭、地域の連携を一層強化するということと、新しい学習指導要領の完全実施に向けて授業時数を確保することを目的としている。

小金井市の教育委員会としては、完全実施を踏まえて小学校については平成22年度から月1回程度、土曜日授業を実施する必要があると考えている。実施回数については学校で判断する。中学校は24年度から完全実施であり、中学校は学校判断で実施する。今年度実施されている土曜日の学校公開を、今までは土曜日実施し月曜日に振り替えていた。その振替をしない形にする。土曜日午前中の公開授業は保護者だけでなく地域の方々も参観できる。

2点目はICT環境の整備について。国の補助金を受けて整備するが、まずは各教室や特別教室に50インチの大型デジタルテレビが設置される。将来的には電子黒板として利用していく予定である。また、各学校にあるパソコン室と教室をLANで接続され、小学校に6台、中学校に3台ある教科指導用のパソコンを使って教室からインターネットを接続することで、教材を工夫しながら学習内容を高めていくといった取り組みがある。3点目は、各教諭に1台公務用のノートパソコンが設置される。これらも職員室のLANで接続され、教員間の連絡等はパソコンを使用していくことになる。ただし、個人情報の管理の問題があるため、非常にセキュリティが厳しく運用される。ICT環境の整備については現在工事中であり4月から教育活動に利用される。

もう1点、ブロック研修会の報告の中で、「さ・ん・ま（三間）の関係のバランス良い組立」ということが書いてあり、時間と空間と仲間、それぞれの間をとって三間という。今、子どもたちは塾等で忙しく時間がない。公園等も禁止事項が多く自由に遊べる空間がない。社会の関わりが希薄で仲間もない。この三間はほんとうに大きな課題であるが、もう一つ間を加えて、四間と最近言われている。何かというと、手間である。家庭でも子どもを、いわゆる手塩にかけるというが、手間をかけて子どもを育てるかということ、そうでもない部分がある。放任、あるいは逆にあまりにも干渉し過ぎること。学校の中でも手間をかけながら、子どものよさを伸ばしていく必要がある。手間ということ、3つに加えて四間。この四間を考えながら、家庭と地域が連携しながら子どもたちの成長を育てていく。そういったことで言われているので、学校としても家庭に呼びかけていきたい。以上である。

(本川議長)

学校運営連絡会について、市報に公募が出ていたが状況はどうか。また、社会教育委員が学校運営連絡会に入るということについてはどうか。

(田尻委員)

社会教育委員については校長会でまだ話してない。選考については、今年度入っていただいた方々を中心に選考を進めている。

(吉池委員)

学童保育所を出た4年生以降の子どもの時間の過ごし方や、友達同士の関係について、様々な問題があると思うが、どんなことが一番大きな課題であろうか。具体的には共働き家庭の子どもたちの遊び場はどうなっているのでしょうか。高校生等は、駅前のファミリーレストランやファーストフード店にたくさんいるが、もう少し下の年齢の小学校高学年～中学生はどういう状況にあるのか知りたい。

(田尻委員)

学童保育所を出た子どもたちは、4年生になってからは学校の校庭に遊びに来る子どももいる。先ほど言ったようになかなか遊ぶ場所が地域になく、あったとしても制約が多くこれも難しい問題である。友達同士の家で遊ぶ子どもや、サッカーや野球、新体操等のクラブ活動をしている子どもも多い。

家の近くには小さな公園があるが、子どもたちはたくさん遊んでいる。ただ、放課後の子どもたちの具体的な状況などはつかめていない。

(本川議長)

私と関わりのある子どもたちは、クラブ活動や塾やピアノ等の習い事を組み合わせて時間を過ごしている子どもたちが多くようで、ある時間になると親が迎えに行けるような感じが多いかんと思っている。

学童保育所が終わった子どもたちの土曜日の過ごし方は気になっている。土曜日でも両親が必ず休めるわけでもないのに、それらが自立に結びついてくれればいいと思う反面、心配もしながら付き合っている。放課後子どもプラン等の施策の充実が、子どもたちの居場所作りになり、手間もかけることができ、空間もできるのではないかと期待している。後は児童館。緑児童館とみどり学童保育所は併設されているので、学童保育が終わった子どもたちは児童館で遊んでいる。登録は必要だが、ふらっと遊びにいつでも大丈夫なようである。

(浦野委員)

去年、民生委員の研修で東児童館に行って話を聞いたが、やはり学童保育を終えた4年生より上の子たちは、土曜日等は弁当を持って児童館で一日過ごしていることもあるようである。具体的なカリキュラムがあるわけではないが、各々自由に遊んでいるようである。また公民館で遊んでいる子どもも多いようである。家にいられない子どもたちが集まっているとも考えられるので、それも心配である。

(中村委員)

土曜日の事業としては、学芸大の学生がやっている風の子こども会・海の子こども会がある。土曜日の午後を利用して、大変活発に活動しているようである。場所は児童館や公園等を利用しており、キャンプ等のイベントもやっている。必要経費のみ自

己負担だが、非常にいい組織だと感心している。

(本川議長)

ボーイスカウトやガールスカウトも子どもたちのことを考えると非常によい活動である。少し早いですが、今日、ご発言のない方で、何か一言ずつお願いしたいと思う。

(本多委員)

桜まつりが始まる。たても園の中の建物を利用してやっている。ぜひ来て欲しい。

(樹委員)

先ほども出ていたが、駅前のファーストフード店に先日初めて行った。カウンター席のところにパソコン等の給電用にコンセント設置されていて、そこには小学生らしい子どもたちが携帯ゲーム機で遊んでいた。自分の子どものことを思い返し、反省とともに、田尻委員の発言のように手間をかけて育てることの大切さを実感した。

(本多委員)

郵便局本局の近くに駄菓子屋ができた。それで私もちょっと気になって、毎回通るたびにのぞいたが、さまざまな年代の子どもたちが交流している。具体的な話の中身はわからないが、今でも昔の子ども姿が残っているのだと感じた。一度、お店の方と話をしてみたいと思っている。

(倉持委員)

先日、新4年生たちの卒論構想検討会あった。1人の学生が、最近の子どもたちは外で遊べないのではないかとということの研究テーマに取り上げたいということである。ゲーム等を全て否定するのではなく、何故外遊びが大切なのか、どうやったら支援できるのかを研究したいようである。先ほどの駄菓子屋さんのお話などを聞いていると、これまでの社会教育ということで考えるだけでなく、実態に即して、それこそファーストフード店もある意味で子どもたちにとっての居場所になっている現実を踏まえながら支援の方法を探る考え方も出来るかもしれない。

(林スポーツ担当課長)

スリーデーマーチの進捗については前回報告したとおりである。スリーデーマーチではボランティアを募集しているが、例年よりも早く定員になり、すでに募集を締め切っている状況である。スリーデーマーチと同じ日程で、伊能図展というイベントを実施する予定である。

(田中図書館長)

小金井市子ども読書活動第二期推進計画を去年5月に作成した。実施の成果については庁内の検討会議にて集約し議会に出して説明したいと思っている。また、平成22年度に図書館の電算を入れ替えることを検討している。予算が通った場合、連休明けから1週間程度休館し、新システムにてオープンすることになる。このシステム移行により図書館のサービスについても見直しを行う予定である。具体的には、図書館のインターネット予約について、貸し出し中のものだけでなく、書架にあるものもインターネット予約ができるようにする予定である。CDについてもインターネット予約

ができるようにし、貸し出し期間の延長についても併せて検討している。進展があったら、また報告する。また、今年国民読書年で9月か10月頃に絵本作家の講演会を行うことを予定している。

(浦野委員)

特別支援教育が必要な児童について、教員の手が足りていないような状況があると聞く。地域へ呼びかけて連携していくようなことができるかというと考えているが、校長会で話題に出たり、具体的な方向などが示されたりしているか。

(田尻委員)

現況は市教育相談と連携をしながら、各学校の必要に応じて巡回相談と巡回指導をしている。学習指導員が市に2名いるので、週1回、1時間から2時間程度の個別指導している。またスクールカウンセラーも週2回配置されている。もう一つは、学生ボランティアが教室に入り支援を手伝ってもらったりもしている。また、特別支援ネットワークに校長会から委員を1人4月から出すことになっている。

(本川議長)

支援学習ということで、二中で特別支援を必要とする子どもを対象に別の場所へ行って学習指導を受けるということが行われていると聞いている。今の話のように教室に入って一緒にサポートするというのであれば大丈夫だが、別の場所に行ってしまうと、別の問題が出て来る可能性があり、親は悩んでいるというような話を聞いたことがある。

(田尻委員)

通級指導に行っている子どもについては、学区ごとに通級での指導内容等について報告書をそれぞれの学校に送っており、どのような指導がされたかわかるようになっている。その子どもに対してまず今一番必要なことは何かを大切にしている。出来る部分では教室・学校で対処し、それでもなかなか厳しい状況の子どもが通級に行くわけだから、学校に行かない部分の内容がおろそかになるということについては、それは学校としても心配はしていない。

(本川議長)

十分考えた上でのいろいろな選択であろうと思うし、それが子どもにとって最善であるという方向を周りが考えているはずだと信じているが、親の心配も確かにあるということを伝えておく。

以上